令和３年１月８日
学校だより　第10号
練馬区立橋戸小学校
校 長　青木　俊哉

橋　戸

「進化」は「変化」の先にあり！

校長　　青木　俊哉

明けましておめでとうございます。年頭の挨拶に込められた“あたり前”さえ、ありがたく感じる新年、令和３年の年明けを迎えました。橋戸小に関わるすべての皆様のご健勝を、心より祈念いたします。

今さら言うまでもありませんが、大変な年でした。オリンピック・パラリンピックの開幕を控え“夢と希望に満ち溢れた年明け”の記憶は、一年前とは思えぬほど遠い所へ飛んで行ってしまいました。感染爆発、臨時休業、三密、ソーシャルディスタンス、緊急事態宣言、ステイホーム、ハンマー&ダンス、第二波・第三波…様々な言葉が飛び交い、人々の思いが交錯し、制限や制約の多い毎日ばかりが思い出されます。そんな中、６月にはようやく学校も教育活動を再開し、気が付けば年末を迎える…そんな一年でした。まだ感染収束の見通しは立ちません。かすかに見える遠い先の光を頼りに恐る恐る歩みを進める、頼りないスタートではありますが、それでも時間は流れます。今日から子供たちは学校での生活、３学期の活動を始めます。「オール橋戸」の力で、学校と家庭と地域の知恵と力を結集して、“目の前の子供たちのために全力で”取り組んでまいりましょう！

年末に読んだ雑誌に、熊本県立大津高校サッカー部前監督（現総監督）　平岡和徳さんの記事がありました。今月の巻頭言のタイトルは、記事に見つけた平岡さんの言葉からいただいたものです。平岡さんは、帝京高校から筑波大学で全国制覇した有名選手であり、指導者としても全国大会常連の強豪校を作り上げ、現在は熊本県宇城市の教育長を務める方です。気になった文章がいくつかあるので、一部を紹介します。

・選手一人一人の「成功」は必ずしも約束されていないが、「成長」は必ず約束されている環境を作り続けたい。
・「考える」を習慣化し、何をすべきか生徒自らが考え、主体的に行動できる（考動力）を育むことがねらいである。
・普段の生活の中でも、自分ならではの夢（目標・理想）をもち、その達成に向けて時間の使い方を考え、夢中になって努力するようになる。最後まで諦めない「心」の才能が磨かれる。それは、人生を築く力そのものである。
・ポイントは「夢」の存在、目指すゴール（夢・理想）のない者に、進む道はありません。まずは夢があってこそ。そのためには、子供ができるだけ多くの「本物」に触れられるような「大人の工夫」が重要です。
・子供が自ら夢に向かって進むために、環境を整え、可能性の幅を広げる支援をしていくことこそ、教育の役割だと考えています。…一番近くにいる大人が、最初の教育者です。そういう意味では、教育のスタートは家庭です。教育という「川の流れ」は、家庭という源泉からの一滴がその始まり。家庭だけでは補えない部分があるので、学校や地域という社会のシステムがある。そのシステムを手厚く、組織的に、人がどんどん重なり合うように構築していく中で、それぞれが連携を強化し協働の質を向上させていくことが私たちの使命。
・**進化は変化の先にある。**よりよい未来を築くためには、私たちが「今」を変えることが必要。

選手や生徒を児童と読み替えると、これからの学校に必要なことや求められることにつながります。

苦しい時間、厳しい環境はまだ続くと思われます。とはいえ、社会の在り様は、そう簡単には変えられません。だからこそ、私たち自身が「今」を変えようとする視点をもち、実際に変えていくエネルギーを見出す必要性を強く感じます。そんな自分自身の思いに重ね、勇気づけてくれる文章のように読めました。

さて、今年の干支は「辛丑（かのと・うし）」。辛は“痛みを伴う幕引き”“草木が枯れ新しくなろうとしている状態”を、丑は“種子の中の芽が、まだ伸びることのできない様”“発芽直前の曲がった芽が、殻を破ろうとする状態”を示すと言われます。また、丑（牛）には“堅実さ、粘り強さ、誠実さ”もあります。